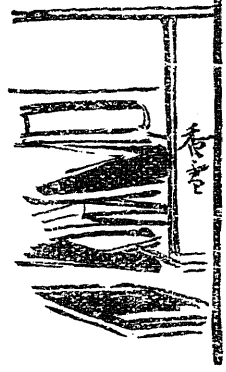

ぬくとしみるる
第拾壹卷第二號

保育研究の急務

會長　中川謙二郎

左に錄するは昨年十二月本會常會に於ける中川本會々長の演說の要點であります。但し標題は編者の隨意に撰びたるもので、文と共に其責任は全く編者にあります。

フレーベル會が諸君の御盡力に因つて段々と事業を遂行し來つて、雜誌も大分號を重ね得るに至つたことは、實に御同慶の限りであります。私も自ら會長の名を汚して居る以上は及ばずなから諸君の御研究を援けて、大に此保育事業に貢獻したいと思ふて居ります。夫れに就きまして、聊か感じて居る所を茲に御集りの方々に開陳して、大に皆樣の御熟考を願ひたいと思ふのであります。元來フレーベル會は保育事業を研究して其結果を發表して居りますから、之を側面から見ますと云ふと丁度小學校の仕事の上に於て、中央に於ける或るオーソリチーある所の研究が、其發表と共に廣く傳布して、忽ちの中に全國に普及

されると同じ樣に、保育に關することは本會研究の結果が忽ちの中に全國の幼稚園に其儘普及す可き筈であると、そう云ふ樣に考へられる方があるかも知れぬが、之は必ずしも然うとは云へぬと思ふ。何となれば元來、小學校と云ふものは國民敎育の最も重要なるものでありますから、其の仕事も、或程度迄は、嚴重に極められたもので、中々動きが取れないものであるが、幼稚園に就いては、文部省は成る可く自由に放任して、今日も法令の上には嚴密の規定はありません。唯幼稚園の課目と云ふものが現在法令の上に極められて居りますが、之も文部省は、嘗てフレーベル會が建議した處の意見によつて成る可く近い將來に於て此課目は廢めたいものであると云ふことを、當局の人が考へて居るやうに承はつて居ります。でありますから、幼稚園保育の態度は極めて廣い自由の範圍に置かれて居るものであります。是が小學校であると云ふと、どこかで宜しいと云ふことは、一般に何處の小學校でも之を行ふ義務がある樣に感じますけれども、幼稚園に至つては左樣な窮屈は少しもない。假へば、成る程一般には善いことではあるが、我幼稚園は斯く〳〵の方針、斯く〳〵の主義を以てするものであるから、他の幼稚園によくとも、自分の處では行ひ惡いと云ふことがあつて、決して差支はないのであります。蓋し保育の改良進歩を計ることに於ては、何處が後先と云はず、共に猛進してよい譯であつて、必らずしも人が行つて居るからとか、或はフレーベル會の研究の結果だからとて、各幼稚園一概に摸倣する必要はないのである。卽ち大なる自由を以て、大に保育の實際を選擇して、眞實に其幼稚園の爲め、其幼稚園の幼兒の爲めに幸福なる可きものを取捨しなければならぬ筈であります。斯樣にしたならば其處に各幼稚園の特色と云ふものが成り立つて個別的敎育の必要な保育事業は、一層完全に其必要を充たされるに相違ありません。早いお話が、

現在日本の幼稚園は幼兒の滿三歲から小學校に就學する迄の三年間、子供を預ることが普通でありますが、所に因つては、二年間でも宜しからうし、或は一年間でも宜しからう。時と場合に因つては所謂託兒所の樣に、生れた當歲から預つても差支ないと思ふ。要するに幼稚園は時と所との事情に應じて最も適切なる施設經營をして、大に其幼稚園の特色を發揮する樣にしなければなりません。併しながら銘々各特色を發揮し、自己獨特の法を保育のあらゆる方面に行ふと云ふことは、事に因ると頑迷固陋の弊に陷ることがある。之は己れの特色を發揮することに急なる人には往々にして見るところの缺點である。併し斯ういふのは研究的向上心を麻痺せしめ人の進步發展を蔑視する傾を持つもので、文明開化の賊であるから、吾人は一方には己が特色を維持するに努むると共に、亦此害毒に中らぬ樣に心掛けねばならぬ。卽ち一方には何もかも流行にかぶれ、人に眞似ると云ふ樣なことのない樣に戒めると共に眞面目の研究を進めて、他の長を捕つて我短を補ふの用意あることが必要である。卽ち幼兒保育の任に當るものは、大に研究して世の進步に後れざらんことを努むると共に、一方に自家の特色を維持し、其長を失はざらんことを心掛けねばなりません。

而して其研究的方面に對しては本會は大に活動しなければならぬ。勿論從來とても本會は種々なる研究をして居り、其結果は我保育界を利して居ることは承知して居るが、併しまだ〳〵研究の餘地が澤山ある樣に思ふ。此點に於て大に活躍の餘地がある。云ふ迄もなく中には研究しても直に實行の出來ないことは幾らもある可く、亦時には當局の權力を要する樣なこともあるであらうが、夫れ等も單に研究することに於ては決して差支はない。而して其研究の結果は決して徒爾には終らぬ。先年本會の建議した規則改正案が大に當局者の參考となつて居ることは、前お話し申した樣な譯で

あるから、本會は益々奮發して諸種の研究を發表す可きである。集會の如きも何にも規則に年四回とあるからとて五回開いてならぬことはない。大に研究會を起して研究調査をなす可きである。而して其結果は遠慮なく、夫れ々々適當な方法を以て之を發表して、以て全國の保育者の參考に供し、若しくは禮節を具へて當局の參考に資すると云ふ樣にしても宜しい。兎に角本會の如きは、大に活動して研究に從事し、地方會員諸君は本會を利用して、大に其幼兒の爲めに奮勵せらるんことを希望するものである。

○和俗童子訓の一節（貝原益軒）

凡そ小兒の敎は早くすべし、然るに凡俗の智なき人は、小兒を早く敎ふれば氣碎けてあしと、只其心に任せて置くべし、後に智慧出來れば一人よくなるといふ、これ必ず愚なる人の言ふことなり、此言大なる妨なり、古人は小兒の始めて能く食し、能く言ふ時より早く敎ふ遲く敎ふれば惡しき事を久しく見聞きて、先入の言心の內に早く主となりて、後に善き事を敎ふれども移らず、故に早く敎ふれば入り易し常に善き事を見せしめ聞かしめて善き事にそみ習はしむべし、おのづから善にすゝみ易し、惡しき事も少しなる時早く戒むれば去り易し、惡長じては去り難し、古語に「兩葉不レ去將レ用二斧柯一」と云へるが如し、婦人及無學の俗人は小兒を愛する道を知らず、姑息のみにして只甘きものを多く食はせ、よききぬを暖かに着せ恣に育つるをのみ其子を愛すると思へり、是人の子をそこなふわざなる事を知らず、今の世其父禮の好みて其子の幼き時より嬉を敎へ和禮をならはす人は、必ず其子の作法よく立居ふるまひ、人に交り不束ならず、老に至るまで威儀よし、是れ其父早く敎へし力なり、善を早く敎へ行はしむるも、其のしるし亦斯の如くなるべし、

小兒の時紙鳶を上げ破魔弓を射、獨樂をまはし毬打の玉を打ち、手球をつき端午に旗人形を立つる、女子の羽子をつき、あまがつをいだき、雛をもてあそぶの類は、たゞ幼き時好めるはかなき戲にて、年長じて後は、必ずすたるものなれば心術に於て害なし、おほやう其好みに任すべし、されども費多く飾り過ごし、好み過さばいましむべし、ばくちに似たる遊はなさしむべからず、小兒の遊びを好むは常の情なり、道に害なき業ならば强て押へかゞめて其氣を屈せしむべからず、只後にすたらざる遊び好みは打任せ難し、